

育成会

かわさき



知的障害者親の会 会報 No.192

2019. 2. 1

新年のごあいさつ



川崎市育成会手をむすぶ親の会
会長 結城 眞知子

明けましておめでとうございます。皆様には良いお年をお迎えのことと存じます。

昨年も会員の皆様のご理解とご協力のもとに、会の活動を続けてこられましたことに深く感謝申し上げます。

そして、平成30年9月14日に開催されました「第52回手をつなぐ育成会関東甲信越大会 川崎大会」は、分科会会場の許容範囲を超えるほどの総勢600名以上のご参加をいただき、無事に終了することができました。

川崎市長をはじめとして、大勢のご来賓のご臨席を賜り、心より感謝申し上げます。

また、講演講師・シンポジスト・コーディネーターの皆様、スタッフ、ボランティアの皆様のご協力があったからこそ、大会を無事に開催できました。心から敬意と感謝を申し上げます。

今後は、これまでの会の活動を一層充実したものとするために、更に真剣に取り組んでいきたいと思っています。特に障害者の高齢化・重度化と親なき後を踏まえた福祉の充実には、課題がたくさんあります。会として障害者の一人ひとりが親なき後も安心して幸せに暮らすことができる支援体制の充実を行政に働きかけていく役割を担っていかなければと強く思います。また、障害者理解のための啓発活動も重要だと考えます。これらの事は、新体制になっても引き継がれていきますので、引き続きご支援ご協力をお願いいたします。

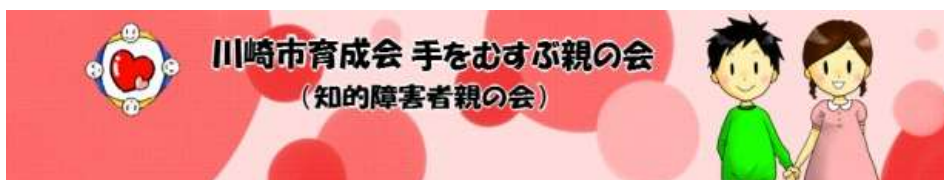
最後になりましたが、1月19日(土)川崎市民プラザに於いて「平成31年成人を祝う会」が開催され、市長をはじめとして、多くのご来賓の方々やご家族とともに“成人のお祝い”を行いました。回を重ねて31回となり、成人参加者も年々増えてきています。大勢の方々とお祝いができるのは、大変喜ばしいことです。特にご家族の方は、我が子の立派に成人した姿に感慨深かったと思います。

成人者の皆さんが、明るく前向きに暮らして行けるような社会になるように、当会もともに考え、微力ながらお手伝いできたらと思っています。

新成人を迎えられた皆様、おめでとうございます。輝ける未来と幸せを心よりお祈りいたします。

ホームページ

「川崎市育成会手をむすぶ親の会」で、検索してください。



平成31年成人を祝う会

平成31年1月19日（土） 川崎市民プラザ

市長祝辞

川崎市長 福田 紀彦

新成人の皆さん、本日は誠におめでとうございます。

そして、保護者の皆さんはじめ、今日は多くの施設の方、会社関係の方、それから、実行委員長はじめ各学校の先生方、こういってずっと支えていただいた皆さんが、多数ご出席いただいておりますことに、心から感謝申し上げたいと思います。

先程、写真撮影をしておりましたら、中央支援学校の校長先生が、学校を卒業してからわずか2年余りだけれど、顔がもう全然違っている、というお話をされました。おそらく、保護者の皆さんから見ても、卒業してからの2年間ぐらいというのは、本当にたくましく大人っぽくなったのではないかなと思います。

本当に、心からお祝いを申し上げたいと思います。

これから、新成人の皆さんには、大人としての覚悟と責任というものが出てくるわけでありまますけれども、ひとつエピソードをお話したいと思います。

私が大変勇気づけられた話です。

アメリカの第16代大統領にアブラハム・リンカーンという大統領がいます。アメリカの歴史上、最も尊敬される大統領の一人です。

一見、大変成功して有名な方だと思われがちですが、リンカーンは、幾多の困難をくぐりぬけてきた大変苦労の人です。9歳でお母さんを亡くして、19歳でお姉さんを亡くして、20代で自分の事業を立ち上げたけれども、それも倒産してしまっていて、婚約者が亡くなって、そして、自らがうつ病になってしまっていて、と。そして、30代から40代後半に、ずっと国会議員の選挙を受け続けるんですけれども、5回連続で落ち続ける。そして、ようやく51歳の時になって、初めて大統領になる訳でありますけれども、その道のりは、生まれた時から大統領になるギリギリまで、まさに困難と、そして、チャレンジの繰り返しだったということでもあります。

そのリンカーンが「私の歩みは、まことに遅いけれども、しかし、これまで歩んできた歩みは、決して逆戻りすることはない。引き返すことはない。」と語っています。

これから、大人としてお一人おひとりがそれぞれのチャレンジをされていくと思います。そこには、これまでではない、繰り返し言いますがけれども大人の責任と覚悟が出てくる。その中でいろいろな困難がこれからもあると思います。しかし、決して引き返すことなく、どんなスピードでも一步一步着実に前に進んでいっていただきたいなと思います。

皆さんには、限りない可能性がお一人おひとりに秘めておられます。今日は、140名ぐらいの皆さんがご出席ということでもありますけれども、今日ここに事情があつて来られていない方も含めて、ぜひ仲間と一緒に学んできたことを大切に、一人一人前に進まれることを心から期待しております。

結びになりますが、皆さんの前途へ限りない幸せがあることを心からお祈りして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。



成人者誓いのことば

橋本 みなみ

本日は、成人を迎えた私たちのために、このような盛大な式典を催していただき、ありがとうございます。

私は今、介護老人福祉施設の、通所介護サービスで仕事をしております。利用者さんが使われたコップを洗ったり、入浴後の方の整髪をしたり、脱衣場の雑巾がけなどを、主に頑張っています。

休みの日は、小さい頃から通っている地域活動支援センターへ参加しに行ったり、毎月高尾山に登ったり、大好きな映画鑑賞をして、リフレッシュしています。

高校は田島支援学校に通っていました。通学に1時間半かかったのですが、最初は大変でしたが、後半は朝のラッシュにも慣れ、体力もつき、一日も休まずに通うことができました。

新しい友人もたくさんでき、修学旅行で行ったUSJや、卒業遠足で行ったマザー牧場も、楽しい思い出です。

幼稚園から高校までお世話になった先生方、一人で仕事ができるように、丁寧に教えてくださる職場の方々、同級生やその親御さんなど、街で声をかけてくださる地域の方々、休日の活動に、いつも一緒に行ってくれる父、毎日の食事やお弁当を作ってくれる母、いつも近くで応援してくれる、妹や祖母。今までの、20年間、私を支えてくださったすべての方々に、感謝の気持ちを伝えたいです。

そして私も、たくさん「ありがとう」を言っていたるように、これからも毎日、元気に、仕事を頑張ることを誓って、新成人代表の挨拶とさせていただきます。



ちあき
平塚 千紘

私は、麻生養護学校高等部を卒業して、OdakyuOX 新百合ヶ丘店に就職し、この春で2年になります。職場は食料品の小売店で、私の担当はお惣菜の加工です。食材の加工から調理、そしてケースやトレーに盛り付けることが、私の仕事です。

会社に入った直後は、緊張と不安で一杯でした。しかし、周囲の方々の優しい導きと家族の励ましで困難にまっすぐ向き合うことができ、少しずつできる仕事が増えてきました。今では、少々自信もつきました。私の次の目標は、作業全体の流れを考えて自分の作業の内容をマッチさせることと、新しい作業や調理の技術を身につけることだと思っています。

声も小さくおとなしかった私が、毎日少しずつ成長できるのは、周囲の皆さんが優しく見守っていることと家族の応援のおかげです。もうじき2年になる社会人としての生活で、大人としての責任感も少し身にとっています。

今日成人の日を迎えて、皆様にお約束したいのは、「自分にできることを精一杯やり遂げます」ということです。努力を続けることが、皆さんの応援にこたえることになると思います。

最後に、本日私たちをお祝いしていただく皆様に、新成人を代表して感謝申し上げます。ありがとうございました。



平成30年度 川崎市障害者週間 記念のつどい・表彰式



11月17日(土)とどろきアリーナにおいて、障害者週間 記念のつどい・表彰式が開催されました。今回は、「手をつなぐフェスティバル」内で表彰式が行われました。アリーナの内外で、様々なイベントが開催され、たくさんの方が楽しんでいました。表彰式の会場でも、体験コーナーやフリーマーケットが同時に行われており、活気に満ちた式典となりました。

川崎市育成会手をむすぶ親の会からは、書記の吉野明美さんが、「心身障害児(者)福祉功労者(育成功労者)」として表彰されました。お祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍をお祈りいたします。
(高山 君子)

緑陰訓練「栃木県 益子焼の里と梨狩り」(バス旅行) 中原支部 吉野 明美

10月20日(土)最高のお天気に恵まれて、川崎市役所、武蔵小杉駅と登戸駅、高津区役所の4か所から、3台のバスでそれぞれ栃木県へと出発しました。

紅葉のシーズンが始まっていて、東北自動車道は渋滞していましたが、いわふねフルーツパークで子どもの顔ほどの大きな梨(品種は「にっこり」)が待っていたので、疲れは吹っ飛びました。ずっしりと重く、



美味しい梨で、名前のとおり参加者全員をにっこり笑顔にしました。そして、帰るときのことまで考えているのかしらと思うほど、お土産の農産物がバスの足元でゴロゴロしていて、皆さんの満足度がうかがえました。

益子焼窯元共販センターで、昼食をいただいた後、益子焼の展示や製品をじっくり見て、お土産を買いました。その後、なかがわ水遊館へと向かいました。ハロウィン仕様になっていて、可愛い魚たちがより可愛くディスプレイされていました。



みんなと一緒にバスに揺られて出かけることを何よりも楽しみにしている娘を見ると、私も幸せな気分になりました。

つぶやき

ぬか喜びになっ
てしまうのか?
南部入所施設

国の方針で入所施設の建設が難しい状況の中、川崎市で最後の入所施設になるかも知れないと、強い気持ちで施設建設を要望してきました。

やっと、悲願が達成できたと喜んでいたのもつかの間、知的障害者の入所施設の定員が、他の障害に比べて圧倒的に少なく、この内容には、正直愕然としました。

川崎市は、知的障害者の希望が多い時には、柔軟に対応するとのことですが、数字がはっきり明記されている以上、そう簡単ではないと思われ、もしそれが本当に可能なら明文化して、確実に実行していただきたいです。

重度の人たちが、地域で生きていくには、入所施設はその人なりの自立を身に着ける場所として必要不可欠ですが、そうはなり得ない厳しい現状です。

知的障害の人たちが、親なき後も安心して生きていくための選択肢としても必要な入所施設。今後は、運用面での充実を当事者も交えて決めていただきたいと思います。

民生委員・児童委員との懇談会

研修事業推進委員 三浦 ひろみ

12月6日(木) 地域福祉施設「ちどり」で民生委員児童委員との懇談会を行いました。前半は川崎市危機管理室担当課長の並木さんをお招きし、平成29年度の災害状況や洪水ハザードマップの見方などを教えていただきました。

地震と違い台風などの大雨は予報で知ることができ、情報収集することで事前に災害に備える準備ができます。自宅が危険な時は避難することが最優先ですが、備えが整っていれば自宅にいても可能です。避難のタイミングを逃さないように判断を誤らないように、まさに「意識と準備が命を守る！」のだと、あらためて思いました。

後半は居住区を4つのグループに分けてフリートークとしました。委員さん一人一人の発言から熱意を感じられ、地域の学校行事やイベントへの参加、施設見学や勉強会・講演会に行ったりと、障害児・者への理解を深める努力をされているとお話がありました。

一方で障害当事者やご家族と意見交換する機会がほとんど無いので、実際にどのような支援を望み関わってほしいのかが解らないとも言われました。

昨年と同様に大変に盛り上がり、活発な意見交換がされて有意義な時間となりました。



やまゆりとの共催研修会

知的障害理解のための研修会パート2 「知的障害疑似体験の役割とこれから」

権利擁護委員会委員長 仁尾 智都子

12月10日(月) てくのかわさきホールで、「知的障害疑似体験の役割とこれから」の研修会を開催しました。



【第1部 座間キャラバン隊の公演】

座間キャラバン隊は、「どうやって障害のことを説明したらよいの?」というあるお子さんの質問から生まれた体験型の講座で、研修会当日は、軍手をはめて鶴を折って手先の不器用さを感じたり、ペットボトルを使って独特な見え方を体験したりしま

した。また、「ピカ」という言葉だけのピカチュウ王国では、言葉の伝わらないもどかしさも体験しました。障害特性のお話や、障害のある人への接し方についても具体的に説明してくださり、座間キャラバン隊のモットーである「みんなちがってみんないい」を心に深く受け止めることができました。

【第2部 堀江まゆみ白梅学園大学こども学部発達臨床学科教授の講演】

堀江先生は、障害のある人の社会参加について、『合理的配慮』という視点からお話してくださいました。障害のある人が何に困っているのかを理解できれば、それを解決する方法が見つかります。その解決方法が『合理的配慮』なのだわかりました。そして、そのヒントを与える役割をしているのが知的障害疑似体験であり、これを広めることで『合理的配慮』のできる人を増やせるのだと教えていただきました。

また、センスの光る『合理的配慮』の事例を挙げて、その人の気持ちに沿った対応をすれば、障害があってもいろいろな場面で困らずに社会参加できることにも気付かせてくださいました。



※当会でも、権利擁護委員会を中心に知的障害疑似体験のキャラバン隊を発足します。関心のある方は、ぜひ、ご協力ください。

また、3月5日(火)には、おしゃべり塾を開催します。詳しくは、チラシをご覧ください。

第7回全国手をつなぐ育成会権利擁護セミナー(in千葉)2018年11月29日(木) テーマ「意思決定支援を考えよう」 会場：千葉市文化センター3階アートホール

1. 基調講演「権利擁護と意思決定支援の今」

講師 曾根 直樹 氏(日本社会事業大学准教授・全国手をつなぐ育成会連合会権利擁護センター委員)

◇権利擁護としての成年後見制度の動向

①法定後見制度の概要について説明

②成年後見制度利用の促進に関する法律の基本計画のポイント

- ・利用者がメリットを実感できる制度・運用の改善…意思決定支援・身上監護の重視、後見開始後後見人等の交代等
- ・権利擁護支援の地域連携ネットワークづくり…権利擁護支援が必要な人の発見、福祉等の関係者と後見人等を含めた「チーム」での見守りと専門職団体等が協力する「チーム」による支援、不正防止の徹底と

利用しやすさとの調和が大切



◇意思決定支援「私には、意思決定をする権利があります」「目的は、自由に生きること」

- ・意思決定の尊重を阻害してきた要因は…言葉がない・意思がない(意思、希望の把握が困難)という思いこみ、他に決めてくれる人(家族、後見人等)がいる為、意思があっても実現の可能性が乏しい、リスクの回避(本人のために良いと思うことや監督責任回避)

2. ミニ講演「自閉症スペクトラム症の意思決定支援」

講師 中野 喜恵 氏(社会福祉法人はるにれの里 生活介護事業所「ぼぬーる」所長)

- ・意思決定支援とは…どんなに障害が重い方でも意思があり、原則は自己決定の尊重である。理解できる環境を個々に合わせることで、意思決定が可能になる場合もある。難しい場合は好きなことを知り特性に合わせた環境の設定を行うことが大切
- ・支援の実施…成功経験を積む、本人を知ることから環境を整え「これでいい」「不快ではない」の学習の積み重ねと選択・決定ですぐに希望が叶うことからスタート、願いが叶うと発信力が芽生える **発信力=ご本人の意思**

3. 寸劇 「これって意思決定支援？」講師 市川手をつなぐ親の会キャラバン隊『空』

4. シンポジウム「それぞれの立場での意思決定支援～自分らしい人生を～」

① 芳田 展章 氏(ふじさわ基幹相談支援センターえぼめいく所長)

意思決定支援とは本人を理解することから始まり、生きることを支えるのではなく、生きていくことを支えること

② 渋沢 茂 氏(中核生活地域支援センター長生ひなた所長)

中核センターの相談活動には目標・権限・制約の枠がない。

心がけていることは、断らない、まずは動く、地域の関係者との関係を重視、迷ったときは弱い人の立場に立つ、結論を急がない、正解を求めないこと

③ 高野 淑恵 氏(全国育成会連合会権利擁護センター委員・埼玉県手をつなぐ育成会副理事長)

成年後見制度と意思決定支援の関係性は批判を真摯に受け止め、本人の意思を感じ取り生活を広く豊かにしていく努力をすることが大切。おかあちゃん後見人として自分の子どもにしてほしいと思うことをしている。

コーディネーター 関谷 直樹 氏(弁護士・全国育成会連合会権利擁護センター委員)から「10万円貸してほしいと友達に頼まれたので貸したい」との本人の希望にどのように対処するかとの問いがあり、支援者の立場からは本人の意思を尊重し、相手の事情等を聞いて不利益にならないように支援するとのことでした。また、親としては貸さない方向に誘導するとの発言もありました。他に地域移行支援についてや本人の情報を共有する工夫について意見交換がありました。(美和 とよみ)



平成30年度障害者週間「連続セミナー」

「命について」結婚、出産、医療を通して、障害者の人生を考える

12月7日（金）有楽町朝日スクエアにて開催され、当会から6名参加しました。

一昨年はやまゆりの事件、最近では中央省庁での障害者雇用の水増し問題など、いろいろなところでまだまだ障害者を排除したり、障害のある人たちの存在や命の価値が軽く見られている。科学の進歩では医療技術を高め長寿ニッポンを生み出した一方で、優生思想に影響を受けている強制不妊の問題や出生前診断による命の選別も行われている。障害のある人も当然のこととして当たり前前に結婚し、出産もしたい。命を大切にす支援や医療、より良く生きることへの支えについてなど、5つのテーマでお話を伺いました。



①命の重みと優生思想 出産前診断と強制不妊について…

玉井 邦夫 氏（公益財団法人 日本ダウン症協会代表理事）

②医療と介護を巡る障害者の日常…

市川 宏伸 氏（一般社団法人 日本自閉症協会会長・JDD ネット会長）

③ふつうの場所で愛する人との暮らし 結婚推進室ぶ〜け…

田島 光浩 氏（社会福祉法人 南高愛隣会理事長）

④共生社会に向けて 育成会の取り組み…久保 厚子 氏（全国手をつなぐ育成会連合会会長）

⑤共生社会の実現に向かう これからの課題…吉川 かおり 氏（明星大学教授）

今回、医療と福祉の連携や「幸せづくり」の取り組み、こころのバリアフリー、障害者理解・共生社会に向けてみんなで考え、私たちも助けてもらうだけではなく、地域の社会貢献に繋がるような活動をすすめながら、障害のある人が地域の中で今よりも生きやすくなったと思える社会になってほしいと願いながら講演を聞きました。（三浦 ルイ子）

※12月10日（月）全国手をつなぐ育成会連合会より「旧優生保護法・強制的不妊手術に対する検証会報告書」を受けての意見表明が行われました。

私たちの広場「勉強会」平成30年11月11日（日）於地域社会福祉施設「ちどり」



今年の勉強会のテーマは『ヨガ』。昨年の『ストレッチ』に続き、健康運動指導士の先生にご指導いただきました。

ヨガは8万ポーズあり（ストレッチは600位）、巷の運動にはほとんどヨガが入っていて、ヨガを通して「心と体の繋がり」を感じる事が本来の目的で、安定した心・身体を作り上げます。ヨガのポーズは瞑想を深めるための方法で、身体が固いからで

きないのではなく、無理はしないでください。と前置きのお話があり、足首を3回まわす事から始まりました。回数については3回という決まりがあるそうです。先生のお話によりヨガの奥深さを感じながら、先生の教え通りに身体を動かし、どんどんポーズがヨガらしくなっています。膝が痛い方は無理をせずに椅子に座って、自由に自分のペースでされていました。20ポーズ程を行い、すっかり気持ちも身体もほぐれてヨガの良さを実感しました。身体を使う勉強会…病み付きになったかもしれません。（事務局）

川崎市育成会研修会のお知らせ

『サイバー社会で大人が子どもたちを守るためにできること』

～ネット犯罪などの現状と対策について～

日時 平成31年3月4日（月）10:15～12:00

場所 ユニオンビル2階セミナールームA

講師 神奈川県警察本部 サイバー犯罪対策課 情報セキュリティアドバイザー 刃野 智喜 氏



支部通信

あさお語ろう会

麻生支部 磯 優子

11月20日(火)、第2回「あさお語ろう会」を開催しました。

今回は、生活介護の「くりの丘」と「りあん」2か所の見学をしました。

「くりの丘」は開設5年目の比較的新しい事業所ですが、企業からの受注品の作業や、自主製作品作成、地域清掃、アルミ缶のリサイクル等の活動でとても活気のある作業所でした。特に、自主製作品は人気があり、バザーなどに出店すると売り切れることもあるそうです。

「りあん」では、café de Lienでお隣の「弁当弁」のお弁当と美味しいケーキを頂きました。café de Lienは今年開店したカフェですが、障害者事業所が運営しているとは思えないほど、ソファ席もある今時のおしゃれなカフェでした。

どちらの事業所も、職員さんの頑張りが感じられる魅力的なところでした。

前回は上回る12名の参加で、とても楽しい会となりました。

今回は講演会などを織り込ませた会を構想中です。楽しみにしてください♪



おしゃべり多摩11月

多摩支部 神田 明子



11月25日(月)午前10時30分より「福祉パルたま」で行いました。毎回、おいしいコーヒーとお菓子をいただきながらいろいろなおしゃべりを楽しんでいます。今回並ばないと買えない、または並んでも売り切れてしまうという希少なお菓子があり、いかにして手に入れるか、またどこで購入できるかという情報交換から始まり、帰省時の手土産の話

題や親戚の不幸で帰省した人の葬儀・法事の話を受けて、自分たちの出身地域の慶弔ごとの違いの話など今回は自分の周りのできごとの話を楽しくおしゃべりしました。子どものことも大切ですが自分たちだけの話をする機会も必要であると実感し、とても新鮮な時間をすごせました。

「桜の風」施設見学会について

川崎支部 加藤 敦子

11月30日(金)、川崎支部では「障害者支援施設桜の風」の施設見学会を行いました。昨年、支部でグループホームについての研修会を開催したところ、実際の施設を見学したいとの希望が多く寄せられ、今回の見学会を企画しました。

まず、岡部・桜の風施設長、佐野・さくら所長、大野主幹から施設の現状について説明があり、その後1階から3階まで各フロアを見学しました。建物内は日当たりが良く明るい雰囲気、清掃が行き届いて清潔感があります。入所居住エリアは、個々の利用者が安心して生活できるよう、本人の立場に立った支援のための工夫が随所に見られました。日常起きている苦労話を伺いながら、佐野所長が丁寧に案内してくださいました。また、精神障害者宿泊型自立訓練施設もみの木も見学させて頂き、岡部施設長が説明してくださいました。

利用者が退所できる状況になっても、日中活動の受け入れ施設が見つからない等、通過型入所施設ゆえの様々な問題もあるようですが、子ども達が住み慣れた地域へ移行する手段として大きな意味を持つ施設であると強く感じました。



福祉まつりに参加して

川崎支部 安達 ゆかり

12月1日(土)川崎市教育文化会館にて、川崎区社会福祉協議会主催の「福祉まつり」に参加しました。天気も良く、お客様がたくさん足を運んでくださいました。

館内は、「パラスポーツ体験」「ボランティア活動を知ろう」「バルーンアート」「縁日コーナー」や川崎区ならではの体験として「ぬり絵」「麦わら細工」「折り紙工作」「凧の絵付け」のコーナーがありました。スタンプラリーは、ポイントの場所を回ると景品のプレゼントをもらえ、親子で楽しめる企画もありました。



私たちは「川崎マルシェ」で、親の会の活動や福祉施設で作成した手作り品をご紹介します。来て下さった方々に評判が良かったのは、和紙や布の製品とエコたわしで、ほとんどの人が手に取ってくださいました。



次に見かけた時には、お買い求め下さることを願いながら、お話ししました。

これからも、私たちの活動や子どもたちの手作り品を知って頂くために、この「福祉まつり」への参加を続けていきたいと思えます。

学習発表会

田島支援学校支部 島田 可奈子



10月27日(土)高等部学習発表会。各学年のカラーで、それぞれが感動の演目。写真は高3の発表で、大阪修学旅行を元に、見事な大阪城とともに演武。高2の発表では、見事な美術作品画の壁紙のステージをバックに、中華街の本格的な龍の舞から始まり、中・露・仏・伊・米の国々の曲に合わせ、歌ダンス、和太鼓、合奏&歌ダンス&教員フルートも生演奏、合唱では英語歌詞も見事でした。「世界がひとつになるまで」を手話付きで歌い上げ感動のエンディングでした。

11月3日(土)小中学部学習発表会。校門には写真のキラキラな看板の様に、各学年志向をこらした内容で、生徒たちの頑張る姿は、多くの感動の涙を誘いました。こうした発表会は学校生活のだいご味です。社会に出るまでに沢山の経験をして、親の私たちに沢山の感動を見せてくれる貴重な機会です。次の学校行事が楽しみです！



中央支援まつり

中央支援学校支部 鈴木 佳子

11月17日(土)に中央支援まつりが行われました。今年のコンサートは高津中学校吹奏楽部で、馴染みの曲を沢山演奏して下さり、演奏に合わせて歌ったり、踊ったりと盛り上がりました。



会議室ではフリーマーケット、体育館では福祉施設販売があり、生徒の皆さんも一緒に買い物をしました。模擬店もあり豚汁、焼きそば、おにぎりなど沢山販売されました。

分教室生徒によるお茶席、喫茶室は今年も大好評。

午後からは体育館でダンスパフォーマンスがありました。生徒たちも一緒に踊り、最後は舞台上がって踊る生徒もいて楽しい時間を過ごしました。

卒業生、地域の方もご来校になり、素晴らしい一日でした。

第44回 かわしん ふれあい市場

10月26日(金)川崎信用金庫本店1階ロビー及びふれあい広場にて「ふれあい市場」が開催されました。障害のある方々が福祉施設で作った手芸品やお菓子・パンなどの製品がたくさん並び、お客さまも多数、来てくださり、賑



わっていました。織物製品のお店の横には、織り機があり、その場で、機織り体験ができました。体験希望のお客様には、施設に通い始めて3か月の利用者が丁寧に教えていました。

実際に体験してみると、製品作りの苦勞が理解でき、製品の温もりを感じることができました。体験者が、とても軽快に織っている姿を指導をしていた方がうれしそうな顔で見せていました。

このふれあい市場が、これからも障害のある方々の活躍する場であってほしいと感じました。(安達 ゆかり)



第5回ふれあいバザールみぞのくち



11月30日(金)JR武蔵溝ノ口駅南北自由通路にて、「ふれあいバザールみぞのくち」が開催されました。

今年はパンやお菓子の出店がなかったのですが、華やかさに欠けるのではないかと心配されましたが、時期的にクリスマスやお正月の商品が多く、いつも通りの賑わいを見ることができました。駅に電車が着くと、降りてきた人たちで黒山の人だかりができ、活気のある風景でした。

それぞれの店舗もラッピングやディスプレイに工夫を凝らして、つい買いたくなるような品ぞろえになっていました。少し前までの、施設の人が作ったものだから買う…という感覚ではなく、本当に気に入って購入している様子が見られました。製品のクオリティが高くなっていることをつくづく実感しました。(梅田 順子)



平成30年度川崎市障害者作品展

12月19日(水)～23日(日)アートガーデンかわさき第1展示室(JR川崎駅北口傍のタワーパーク3階)で開催され、様々な障害を持った方たちが創作した絵画、写真、書、俳句・短歌、手工芸が展示紹介されました。

添えられたコメントを読みながら作品を鑑賞しますと作者の思いや内面が伝わり、根気強く丁寧に創作に取り組む姿が想像されます。また、繊細な作業が施されたものや、既存の概念にとらわれない多様な表現力に驚きます。このような障害者の作品の魅力を多くの方に知ってもらいたいと思いました。鑑賞を通して作品展が出品者と来場者の交流の場であって欲しいと願います。



なお会期中の22日と23日には同会場でクリスマスリース作り等の来場者が参加できるワークショップも開催されていました。(小澤 千枝)

寄 付 賛助会費	一般社団法人	川崎市弘済会	100,000 円	
	匿名	川崎区	10,000 円	
	渡辺 宣子	幸区小倉	10,000 円	
	梅田 俊彦	宮前区初山	5,000 円	
	川村ふじ江	幸区南加瀬	3,000 円	
	美和 幸嗣	多摩区宿河原	10,000 円	
	結城 隆	川崎区藤崎	10,000 円	
	※1,000 円以上の方を記載しています。			(順不同・敬称略)



川崎市育成会手をむすぶ親の会活動報告
 《平成30年10月20日～平成31年1月15日まで》

＜各種会議、行事＞

10月20日(土)	緑陰訓練	栃木県
23日(火)	第4回研修事業推進委員会	地域福祉施設「ちどり」
11月8日(木)	第4回余暇活動委員会	地域福祉施設「ちどり」
8日(木)	三役会議	地域福祉施設「ちどり」
13日(火)	第7回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」
21日(木)	第4回権利擁護委員会	地域福祉施設「ちどり」
28日(水)	第3回広報委員会	地域福祉施設「ちどり」
12月6日(木)	民生委員児童委員との懇談会	地域福祉施設「ちどり」
6日(木)	川崎市弘済会よりの寄付受領	地域福祉施設「ちどり」
6日(木)	三役会議	地域福祉施設「ちどり」
10日(月)	権利擁護委員会・研修会	てくのホール
12日(水)	第5回余暇活動委員会	地域福祉施設「ちどり」
18日(火)	第8回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」
1月8日(火)	第5回権利擁護委員会	地域福祉施設「ちどり」
9日(水)	三役会議	地域福祉施設「ちどり」
15日(火)	第9回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」

＜対外行事＞

10月22日(月)	関東甲信越ブロック手をつなぐ育成会連絡協議会代表者会議	ミューザ川崎・研修室
26日(金)	かわしんふれあい市場	川崎信用金庫本店
11月9日(金)	平成31年成人を祝う会第2回実行委員会	地域福祉施設「ちどり」
9日(金)	障害者団体部会リーダー研修会	山梨
13日(火)	平成30年度第3回障害者団体部会	エポックなかはら
14日(水)	川崎市福祉センター跡地活用・入所施設説明会	南部身体障害者福祉会館
17日(土)	川崎市障害者週間記念のつどい	とどろきアリーナ
26日(月)	川崎市福祉有償運送運営協議会	ソリッドスクエア
30日(金)	ふれあいバザールみぞのくち	溝口駅南北自由通路
12月1日(土)	障害者週間キャンペーン	川崎駅・溝ノ口駅
4日(火)	平成31年成人を祝う会第3回実行委員会	地域福祉施設「ちどり」
5日(水)	平成30年度関東管内バリアフリーネットワーク会議	横浜第2合同庁舎
7日(金)	障害者週間「連続セミナー」	有楽町朝日スクエア
1月10日(木)	平成31年成人を祝う会拡大実行委員会	川崎市民プラザ

2019年度版

生活サポート総合補償制度

認知障害保険(知的障害者等福祉団体傷害保険特約、地震・火災・津波危険補償特約セット)

被保険者
(補償の対象者)

知的障害児者または自閉症児者をご加入できます。

補償期間 (保険のご契約期間)

2019年4月1日から
1年間

掛金 入院2日目から補償プランB

掛金… 23,000円 (保険料 19,810円)

入院4日目から補償プランA

掛金… 17,000円 (保険料 14,810円)

詳細は担当代理店・医者または引受保険会社にお問い合わせください。また、ご契約に際しましては、事前に重要事項説明書(契約概要・注意事項等)を必ずお読みください。引受保険会社の損害保険募集人は、保険契約の締結の代理権を有しています。

保険のお問合せはこちら

担当代理店・医者
株式会社 ジェイアイシー
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビル2号館2F
TEL: 03-5321-3373 FAX: 03-5321-4774
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

引受保険会社

AIG損害保険株式会社
https://www.aig.co.jp/sonpo
東京第二プロチャネル営業部
〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1 朝宮NSビル14階
TEL: 03-6894-9110
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご加入のお問合せはこちら

一般社団法人やまゆり知的障害児者生活サポート協会
〒221-0844 神奈川県横浜市神奈川区沢田4-2
神奈川県社会福祉会館内
TEL: 045-314-7716 FAX: 045-324-0426
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)
2018年11月現在の内容です。(ID-003489 2019.11)

※平成31年1月1日現在ご加入者は9,257名です。毎月1日付で加入できます。本年もご加入よろしくお祈りします。

- 11 -



編集後記

昨年は権利擁護の面でも、障害者雇用についても世の中を騒がせる問題が明るみになりました。今年には平成から新元号に代わる新たな年です。新しい時代とともに、少しでも我が子たちが生きやすい社会になる時代になることを期待し、皆さんのお役に立てることを願いながら、この広報紙を通じて情報発信していきたいと思っています。 吉野 明美

【もくじ】

- P. 1 結城会長あいさつ
- P. 2 平成31年成人を祝う会 市長祝辞
- P. 3 平成31年成人を祝う会 成人者誓いのことば
- P. 4 障害者週間記念のつどい表彰式／緑陰訓練／つぶやき
- P. 5 民生委員児童委員との懇談会／知的障害者理解のための研修会
- P. 6 全国手をつなぐ育成会権利擁護セミナー
- P. 7 障害者週間「連続セミナー」／私たちの広場／研修会のお知らせ
- P. 8 支部通信／麻生支部・多摩支部・川崎支部
- P. 9 支部通信／川崎支部・田島支援学校学習発表・中央支援まつり
- P.10 かわしんふれあい市場／ふれあいバザール／平成30年度障害者作品展／賛助会費
- P.11 親の会活動報告／やまゆり広告
- P.12 成人を祝う会写真掲載／編集後記／もくじ

発行責任者 川崎市育成会手をむすぶ親の会 会長 結城 眞知子
 〒213-0011 川崎市高津区久本 3-6-22 地域福祉施設「ちどり」
 TEL : 044-812-2966 FAX : 044-813-1216 <http://web-k2.jp/ikusekai-kawasaki>